

久保田 巧

Takumi Kubota, violin



桐朋女子高等学校音楽科を経てウィーンに留学。ウィーン・フィルハーモニー管弦楽団の名コンサートマスター、ヴォルフガング・シュナイダーマンに師事し、ウィーン国立音楽大学を卒業。

1983年第2回フリッツ・クライスラー国際コンクール第2位(1位なし)、第3回ミケランジェロ・アバト国際音楽コンクール第1位。翌84年には、難関で知られるミュンヘン国際音楽コンクール・ヴァイオリン部門で日本人として初めて優勝する。

以来、サヴァリッシュ等の世界的指揮者、ミュンヘン・フィルやバイエルン国立歌劇場管弦楽団等の主要オーケストラとの共演、著名ピアニストをパートナーとしたリサイタルなど、ヨーロッパおよび日本各地でソリストとして活躍する。

室内楽にも力を注いでおり、88年にはウィーン・ピアノ四重奏団を結成。また、87年よりサイトウ・キネン・オーケストラ、90年より水戸室内管弦楽団に参加し中心メンバーとして活躍。

レコード芸術で特選盤として高い評価を得ている「バッハ：無伴奏パルティータ全曲」(2004年)をはじめ、「愛の喜び/クライスラー・アルバム」、「シューベルト・リサイタル/二重奏楽集」など、CDも数多くリリースされている。

桐朋学園大学准教授、国立音楽大学客員教授。

村田千佳

Chika Murata, piano



東京藝大附属高校、同大学同大学院修了後、文化庁奨学金を得てウィーン国立音楽演劇大学大学院ピアノ科及びピアノ室内楽科「ハイドン研究所」修了。

オーストリアトーマスティック・インフェルド賞受賞、国際シューベルト・現代曲コンクール、国際ハイドン室内楽コンクール審査員特別賞受賞、日本をはじめオーストリア、ドイツ、イタリア、スイス、セルビアにて公演。大桑文化奨励賞、和歌山市文化奨励賞、和歌山県文化奨励賞受賞。

2012年より自主企画「音+ピアノ・アンサンブルシリーズ」を開催。世界の第一線で活躍するアーティストとのアンサンブルをユニークな構成で組み立て、多くの反響を呼んだ。

続く2016年からは新シリーズ「室内楽の醍醐味」を開始。同時に、自身がリーダーを務めるゼッパルトトリオが、札幌ふきのとうホールレジデンスアーティストに抜擢され、ハイドンを中心としたピアノ三重奏曲の録音及び公演を行なっている。

現在、東京藝術大学・聖徳大学にて後進の指導に携わる他、銀座ハプスブルクファイルヒェン音楽監督、日本ベトナム文化交流協会芸術監督、ミュージック・マスターズ・コース制作等も手がけている。

公式サイト<http://otoplus-cm.com>

上野通明

Michiaki Ueno, cello



パラグアイに生まれ、5歳よりチェロを始める。幼少期をスペイン、バルセロナで過ごし、数々のコンクールで優勝または入賞。

2009年 第6回若い音楽家のためのチャイコフスキー国際音楽コンクール、日本人初の優勝。翌2010年第6回ルーマニア国際音楽コンクール弦楽器部門最年少第1位、ルーマニア大使館賞、ルーマニアラジオ文化局賞を併せて受賞、ルーマニア各地で5回の連続演奏会に出演。2014年18歳で第21回ヨハネスブラームス国際コンクールチェロ部門に優勝し話題となる。

これまでに新日本フィルハーモニー交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、Russian Symphony Orchestra、Neue Philharmonie Westfalen等、国内外のオーケストラと多数共演。テレビ朝日「題名のない音楽会」、NHKBS「クラシック倶楽部」、NHKFM「リサイタル・ノヴァ」等に出演。

故馬場省一、イニアキ・エチェパレ、毛利伯郎各氏に師事し、桐朋学園大学音楽学部ソリスト・ディプロマコース全額免除特待生。2015年秋よりデュッセルドルフ音楽大学コンツェルトエグザメンコースでオランダの巨匠ピーター・ウィスベルウェイ氏に師事し、更なる研鑽を積む。

宗次エンジェル基金、ロームミュージックファンデーション、第44回 江副記念財団奨学生。岩谷時子音楽文化振興財団より第1回Foundation for Youth、第6回 岩谷時子賞 奨励賞、2016年度第26回青山音楽賞新人賞受賞。

会場

sonorium (ソノリウム)

東京都杉並区和泉3-53-16  
(大圓寺正門真向かい)



sonorium

TEL 03-6768-3000  
Email : hall@sonorium.jp  
http : //www.sonorium.jp

京王井の頭線 永福町駅下車(北口) 徒歩7分  
東京メトロ丸の内線分岐線 方南町駅下車 徒歩10分

お車でのご来場はご遠慮いただきますようお願いいたします。

